

高齢者の生きがいの取り組みについて ～大石地区自治協議会の地域福祉活動～

うきは市 大石地区自治協議会【コミュニティセンター】
健康福祉部会 部会長 中嶋 順子

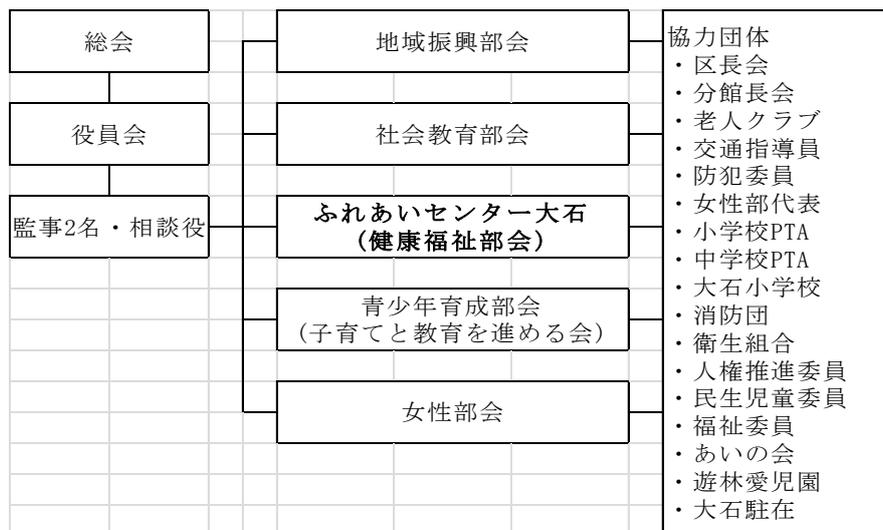
1. 地域の概要

大石地区はうきは市の東部に位置し、筑後川を挟んで朝倉市杷木町と隣接し、大分自動車道杷木インターから2、3分で大石地区に入ります。大石地区に入ると昭和30年に開湯した国民保養温泉地筑後川温泉があります。

また、江戸時代に5人の庄屋が灌漑工事のため築堤した「大石堰」もある地域です。

総人口：2,692人 世帯数：996世帯 高齢率：36.4% 後期高齢率18.6%

2. 大石地区自治協議会の組織図



3. ふれあいセンター大石(健康福祉部会)活動紹介

(1) 福祉まつり

毎年11月第2日曜日に、住民啓発などを目的に開催しています。

主な内容は最高齢者表彰、福祉車両の展示、手工業品の展示、福祉施設の物販、シルバー保安官への感謝状贈呈、保育園児や小学生などによる演芸、福祉学習の発表等を行っています。

(2) 友愛訪問活動

一人暮らしの高齢者見舞い、長期入院、入所者見舞い、一人暮らし高齢者への弁当配布等を行っています。

(3) 研修会・先進地視察の実施

見守り活動、小福祉座談会の開催、民生委員と福祉委員の連携、市内福祉施設見学、レクリエーション研修等。

4. 地域計画に沿った事業展開

大石地区自治協議会が発足し3年目を迎え、地域づくりを主体的に担う組織として徐々に定着してきました。協働のまちづくりを推進するために、施策や具体的事業を盛り込んだ概ね5～10年を期間とする「地域計画」を作成しました。

地域計画は、大石地区地域にかかわるさまざまな立場の人が参加して、地域の課題を明らかにし、課題を解決するための改善計画を策定しました。

<日常生活上の困りごと>

- ・商店が少ない
- ・交通が不便
- ・買い物難民がいる
- ・移動手段がない
- ・電球の交換ができない

一方で・・・

区の役を終えたが地域のために何かしたい。

→ 大石地区住民の全てを対象とした講座の開催へ

5. 地域福祉講座の開催

第1回 「うきは市の現状を振り返ってみましょう」

第1回の講座では、うきは市・大石地区の現状について学び、2つのテーマを設け「みなさんが見たり聞いたりした地域の困りごと」・「5年後・10年後にこんなこと困るんじゃないかなあ」をテーマとし参加者で意見交換を行いました。

<意見内容>

- ・庭木の剪定や草刈り、ちょっとした力仕事は1人ではできない。
- ・車に乗れない人の移動手段がないため、困っている。
- ・老後の介護が不安だ。
- ・話し相手がない。(どんな風に声をかけていいかわからない)
- ・男性一人暮らしの方の食生活(栄養バランス)が心配。

第2回 「支え合いのまちづくり？地域包括ケアシステムってなあに!？」

第2回目は、地域での支え合いの大切さや、2025年に向けて構築される地域包括ケアについて学びました。参加者からは「自分だけしてもらっては申し訳ないけん、お互いにしようや!」「こんくらいやったら手伝ってもよかよ!」「何かあったときのピンチヒッターになってくれる人はおらんやろうか?」等の声を耳にしました。支え合いという一見大変なことをしないとイケないと感じられるかもしれません。

しかし、皆さんやり方がわからないだけで、自分達や地域の中に既に自然にあるものではないかと感じました。

第3回 「認知症サポーター養成講座」

～あなたのために・私のために知っておきたい高齢者の理解～

第3回は講師を招き、認知症について学びました。認知症と聞くと他人ごとと感
じるかもしれませんが、65歳以上の4人に1人は認知症なる可能性があるとのこ
とでした。

第4回 「人とつながるのが楽しくなる？～次世代に残したい大切なこと～」

第4回は実際に市内でボランティア活動を行う3名の方からお話をお聞きしまし
た。

第5回 「まとめの話～つないで人の輪・大石の輪～」

これまでの4回の講座を振り返るとともに、大石地区で今必要なものは何かにつ
いて考えました。4回を振り返り分かってきたことは、定期的な見守りや声かけ、
集まれる場所があることは分かりました。

しかし、日常生活上の困りごとにお手伝いをしてくれる人がいないという課題
が浮かびあがりました。

そこで、参加者の有志により、生活支援のボランティアグループ立ち上げに向け、
動きだしました。



講座参加者有志で集まり、第1回打合せ会を行いました。具体的活動内容につい
て話し合い下記のような意見がでました。

- (1) 買い物支援(同行・代行) (2) 草刈り・草取りの代行 (3) 庭木剪定・畑の耕し
- (4) 学校行事等の際の託児 (5) 電球交換など日常生活上の困りごとの代行 等々

→ しかし、「保険はどうする？」「利用者の負担はどうする？」「シルバー人材センタ
ーとの兼ね合いは？」等の意見がでたため、実際に活動しており先進地でもある大
分県中津市にある「沖代どんぐりサービス」の視察を行いました。

6. 成果と課題

(成果) 地域住民の中には、技術を持っている人や、やる気のある人達が多くいるこ
とがわかりました。

(課題) こういった人達をどのように活かしていくのか、自治協議会に巻き込んで活
動していけるのかが今後の課題となっています。

問い合わせ先

うきは市大石コミュニティセンター

〒839-1405 福岡県うきは市浮羽町古川 479 番地 TEL/FAX 0943-77-7088